

科学部 野外実習



一週間続いた長雨もやみ、心地よい日差しが差す中、毎年恒例となっている科学部の野外実習が5月14日（土）に行われました。部員6名と保護者等1名が参加して高知県中東部の海岸に出かけました。打ち寄せられた岩石や地層の地質巡検をはじめ、潮だまりに生息する海洋生物の観察を行いました。遙か赤道付近からやってきた岩石に太古のロマンを馳せたり、新種発見とまではいかなくとも珍しい（可愛い？）海辺の生き物に歓声をあげたりしました。顧問の先生のレクチャーも大変興味深く、科学に対する知的好奇心がくすぐられました。



芸西メランジュ

メランジュとはフランス語のメレンゲ（かき混ぜる）という意味。チャートをはじめとしたさまざまな岩石が混在した地質になっているのだとか。大きな地殻変動があったのでしょうか。



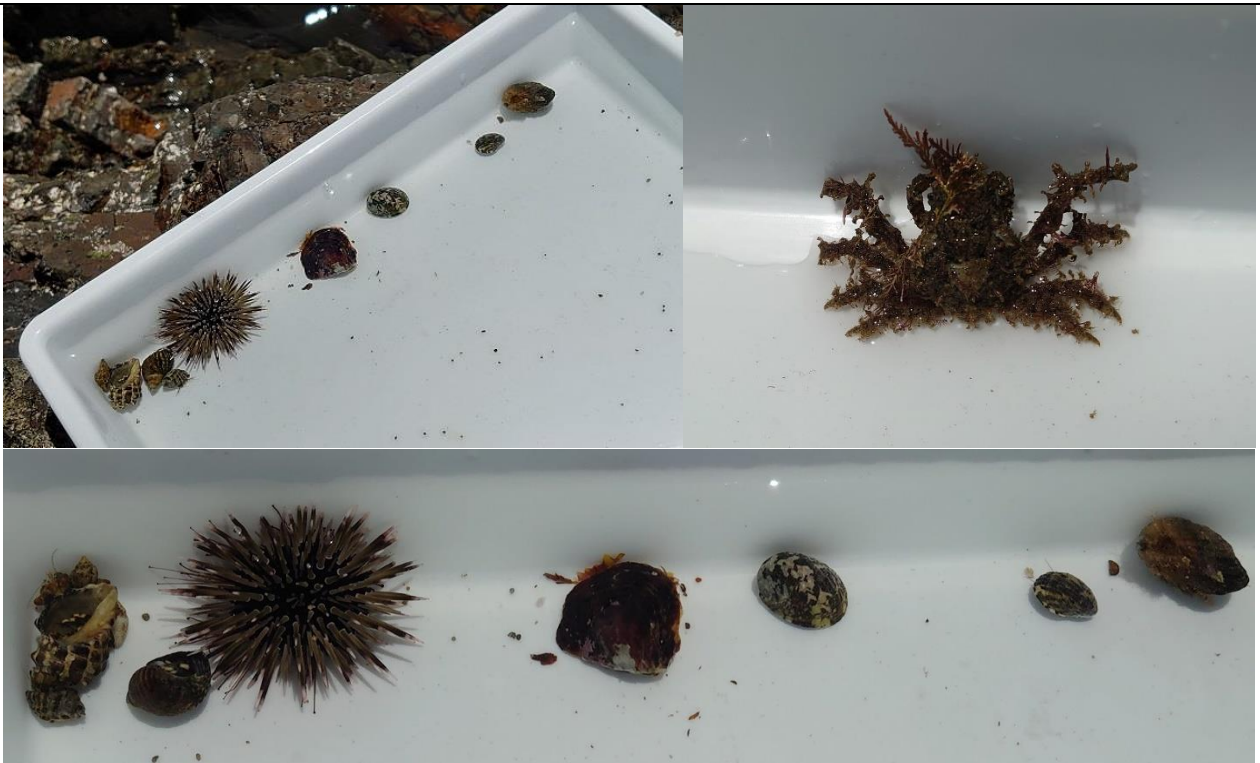
枕状溶岩

枕のような丸みを帯びた塊が積み重なったように見える溶岩。海底で噴出したマグマが海水で急冷されてできたのだとか。フィリピン海プレートに乗って遥々と運ばれてきたのでしょうか。



潮だまり（タイドプール）

引き潮のときの潮間帯では、磯のくぼみに海水がたまります。覗いてみると様々な生き物が生息しているのが観察できます。



海洋生物

見たことのあるのやないのやら…。よく見るとみんな可愛い顔をしています。物知りの顧問の先生でも初めて見た生物もありました。早速、図鑑やスマホで調べてみました。採った生物は観察後に放流しました。貴重な姿を見せてくれてありがとう。